

ダブルチェック再考！

* 全報告件数

開始からの全報告件数は424件です。今回は事例の内容で集計してみました。結果は下表のとおりです。ご協力ありがとうございました。

* 事例の入力について再度お願い！

事故報告書を入力するとき、通常は「患者指定新規入力」を選びます。「利用者で新規作成」は本当に患者が特定できない場合、例えば「廊下に針が落ちていた」などが該当します。

下表を見ていただくと「不明」が多いことがわかります。理由は「概要」で選択するとき「療養上の世話」や「ドレーン・チューブ」などを選択していないことが原因です。例えば「療養上の世話」の下位選択肢の「事例の内容」には「転倒」「転落」などさまざまな内容があります。統計を取るとき正しく選択されていないと正しい分析ができません。ご協力よろしくお願いたします。

事例の内容(全事例):合計424	件数
＜薬剤＞小計134件	
処方:関連(遅延、間違い重複など)	21
調剤:関連(数量、分包、規格違いなど)	30
与薬準備:関連(過剰、過少、時間違い、など)	13
与薬:関連(過剰、過少、時間違いなど)	27
与薬:無投薬	31
与薬:その他の与薬に関する内容	12
＜治療・処置＞	
治療・処置の管理:関連(日程、誤嚥など)	22
＜医療機器等＞	
医療機器等・医療材料:関連(破損、故障など)	15
＜ドレーン・チューブ＞小計90件	
ドレーン・チューブ類の使用・管理の指示:関連	43
ドレーン・チューブ類の使用:自己抜去	47
＜検査＞小計28件	
検査の指示:指示など	9
検査の管理:その他の検査の管理に関する内容	3
検査の準備:その他の検査の準備に関する内容	7
検査の実施:検体取違えなど	9
＜療養上の世話＞小計63件	
療養上の世話の計画又は指示:関連	9
療養上の世話の管理・準備・実施:関連	16
療養上の世話の管理・準備・実施:転倒	29
療養上の世話の管理・準備・実施:転落	9
■不明■	72
対象期間:20160601~20161018	

上記文言は一部まとめて表記されているところがあります

2016/10/20

医真会八尾総合病院 医療安全管理室

● 「ダブルチェックをしていたが・・・」と書かれている報告があります

1. 前回「医療安全ニュース7号」で取り上げた事例でも、ダブルチェックが行われていたがエラーはスルーされていた、という現状がありました。
2. **2人以上で確認すること＝ダブルチェックではありません！**ではダブルチェックとはどうすれば正解なのでしょう？

● ダブルチェックをやめませんか？

1. 近畿大学医療安全管理部辰巳陽一教授は「単純エラー発見目的でのダブルチェックをやめませんか？」と病院安全教育にて著されています。その理由は、間違いを発見するために、ダブルチェックを2回繰り返し4回チェックする。エラー発生の根本原因への対応もなく、ダブルチェックだけを繰り返すため結局ミスが発生し、作業も増えるため多忙になって作業精度も下がり新たなミスが発生する。こんなダブルチェックでは意味が無い。
2. そこで、メモなしでも確認できる単純作業は指差し呼称を、メモが必要な複雑作業はダブルチェックをと、使い分けることも必要ではないか、と。
3. 実効性のあるダブルチェックとするために、そもそも、**なぜチェックしているのか？何をチェックしているのか？チェックする2人は相互依存になっていないか？一つひとつのチェックは責任を持ってなされているのか？時間を十分かけているか？形骸化していないか？**など確認してみることも必要、とのことです。

● 非依存的ダブルチェックが効果的！

1. 信頼できる先輩とペアを組むとダブルチェックの精度が下がる、という報告があります。「あの先輩が間違えるはずが無い」と思い込むことが原因の一つとして分析されていました。「間違えたとしても言いにくい」はアサーションなど別の話ですね。
2. **非依存的ダブルチェックとは、ダブルチェックするペアがそれぞれ独立して（相互に依存すること無く）2重の照合・確認作業を責任持って行うこと**、といえます。
3. 「ちょっと耳・目を貸して！」というのはダブルチェックになりにくいということですね。

● ダブルチェックの方法

1. 1人ダブルチェック

- ① 1人連続型：1人が連続して確認する
- ② 1人時間差型：1人が1回目と2回目の確認作業に時間を空ける
- ③ 1人双方向型：1人が1回目と2回目を確認する方向を逆にする（1回目は処方箋から薬剤、2回目は薬剤から処方箋など）

2. 2人ダブルチェック

- ① 2人連続型：2人が連続して同じ方法で1回ずつ確認する
- ② 2人連続双方向型：1人が確認した後2人目が逆方向で確認する（1人目は処方箋から薬剤、2人目は薬剤から処方箋など）
- ③ 2人同時双方向型：最初は1人目が処方箋を読み上げて2人目が薬剤、次に2人目が薬剤を読み上げて1人目が処方箋を確認する
(神戸大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部より抜粋)

3. 適切なダブルチェックはハイリスクな医療現場で30%の医療事故を減少させるとの論文もあります。**スタッフ全員で非依存的なダブルチェックを実践し**事故を減少させましょう！